

穀雨 (たくさんの穀物を潤す、春の雨が降るころ。この季節の終わりが八十八夜です。)

次候 霜止んで苗出ず(しもやんでなえいず)

霜のおおいがとれ、苗が健やかに育つころ

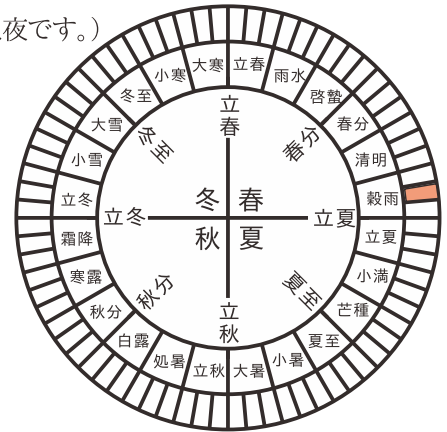
こんにちは、むかつち博士です。

日中、ずいぶん暖かくなる日が続いていますが、お元気で過ごされていますでしょうか？

農村では、田んぼには水が張られ始める季節になりました。

田んぼの近くでは、ふきのとうの時期が終わり、フキの葉が出始めていて、山の中に入ると、カタクリやキクザキイチゲ、リンドウなど、春の一時期にしか見られない草花が見られ、多くの小鳥たちがさえずり始め、夏鳥と言われるキビタキやオオルリの声が聞こえてきます。

花が咲くのに合わせて虫たちも活動し始めていて、野山がにぎやかな季節の到来です。



先日、田んぼの近くを歩いていると、オツネトンボ雄成虫を見つけました。

日本で見られるトンボは200種あまり。 そのうち、本州にすむほとんどの種が卵もしくは幼虫で冬を越えるのですが、オツネトンボ、ホソミオツネトンボ、ホソミイトトンボの3種は、成虫で冬を越えます。

宮城の中山間地域だと、真冬は-10℃くらいまでは下がっているはず。

どういうところで冬を越えているのか、私は真冬にこれらのトンボを見つけたことがないので分からないのですが、『この子は東北の厳しい冬を生き抜いたのだな』と思うと、心の底からすごいなと感心します。

成虫で冬を越えるトンボは、水の中で幼虫の状態です。冬を越える種類に比べ、厳しい温度条件(低温と、温度の変動)にさらされると考えられます。

その一方で、成虫で厳しい冬を乗り越えることができれば、一早く、水が入った田んぼを利用し始められるはずです。

田んぼ地域では、田んぼに水が張られると、植物プランクトンが増え、そのあとにトンボの幼虫の餌になる動物プランクトンが繁殖するので、成虫で冬を越え、田んぼに卵を産んで一生を終える、という生活が成り立っていると思われます。

田んぼ地域の虫の一生と稲作の関係、とっても深く面白いテーマですので、興味を持ってもらえるとうれしいです。

穀雨次候 霜止んで苗出ず むかつち博士



カタクリ(山道にごく普通に生えてます)



リンドウの仲間



ふきのとうとフキの葉



オツネトンボ(宮城県中山間の農耕地)

